

別府市ヤングケアラーに関するアンケート調査
報告書

令和6年5月
別府市
こども部こども家庭課

目次

1 調査の背景・目的	1
2 調査方法、調査期間、調査対象	1
3 調査の内容	1
4 調査結果	2
問1 あなたについて教えてください。	2
問2 悩みや困りについて	2
問3 家族のお世話や家事について	4
問4 相談ニーズについて	6
問5 居場所について	7
問6 感想と気付き(理解)	8
問7 意向確認	9
5 分析	10
(1)ヤングケアラーの可能性のある児童	10
(2)ヤングケアラーと推察される児童	10
(3)支援が必要なヤングケアラーであると推察される児童	11
(4)支援が必要と思われるヤングケアラーの状況	11
6 考察	12
(1) 別府市内のヤングケアラーについて	12
(2) 別府市内の支援が必要なヤングケアラーについて	12

1 調査の背景・目的

令和3年度に大分県が小学校5年生から高校3年生の全児童・生徒を対象として実施した調査によると、「「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがない」という回答が7割を超えていた。

このため、児童生徒向けに「ヤングケアラー」と「こどもの権利」に関する学習会を、小学校、中学校、高校で実施した後に、アンケート調査を行うことで、こども自身がヤングケアラーへの理解を深め、自分自身が『ヤングケアラーではないか』という気付きにつなげることを、また、記名欄を設けたことで、表面化しづらいヤングケアラー（疑いを含む）の実態を把握するとともに、困りを抱えたこどもを発見し、相談支援につなげることを目的として実施した。

2 調査方法、調査期間、調査対象

(1) 調査対象

別府市内の学校に在学中の小学校4年生から高校2年生（特別支援学校を除く）

	対象児童数	回答数	回答率	対象校
小学生（4～6年生）	2,594	2,229	85.9%	15校（うち私立1）
中学生	2,667	2,225	83.4%	8校（うち私立1）
高校生（1年・2年）	1,585	1,204	76.0%	4校（うち私立2）
合計	6,846	5,658	82.6%	

(2) 調査方法

市内の学校において、ヤングケアラーとこどもの権利についての学習会を実施後、WEB（ロゴフォーム）で記名式アンケートを実施（回答は任意）

(3) 調査期間

令和5年9月12日～令和6年3月31日

3 調査の内容

- (1) 回答者の情報（問1）
- (2) 悩みや困りについて（問2）
- (3) ヤングケアラーの可能性（問3）
- (4) 相談ニーズ（問4）
- (5) 居場所について（問5）
- (6) 学習会の理解度と感想、気付き（問6）
- (7) こどもの意向確認（問7）

4 調査結果

問1 あなたについて教えてください。

- (1) 学年 (2) クラス (3) 性別 (4) 別府市居住の有無
(5) 同居家族 (6) 氏名

	男	女	未回答等	回答数	児童数	回答率
小学生	1,061	1,069	99	2,229	2,594	85.9%
中学生	1,108	1,037	80	2,225	2,667	83.4%
高校生	520	628	56	1,204	1,585	76.0%
合計	2,689	2,734	235	5,658	6,846	82.6%

問2 悩みや困りについて

- (7) 現在、悩んだり困ったりしていることはありますか。(複数選択)

	小学生	中学生	高校生	合計
友達のこと	284	315	136	735
勉強のこと	274	719	391	1,384
進路のこと		598	491	1,089
部活動のこと		153	169	322
おこづかいのこと	93			93
おこづかい以外のお金のこと	46			46
学校生活に必要なお金のこと		48	56	104
塾や習い事に行けないこと	31	16	7	54
友達と遊べないこと	67	44	26	137
自分と家族の関係のこと	75	102	39	216
家族の中の人間関係のこと	64	82	36	182
病気や障がいのある家族のこと	28	12	14	54
自分のために使える時間が少ないこと	59	45	33	137
特にない	1,502	1,155	490	3,147
その他	49	48	33	130

- 悩みや困りがあると回答した児童は、回答者の 40.5% (小学生 28.7%、中学生 43.6%、高校生 56.6%)
 - 中学生、高校生の多くは進路のこと、勉強のことについての悩みや困りを上げている。
 - 回答者全体のうち、2.7%がおこづかい以外のお金のことや学校生活に必要なお金のことなど経済面での困りを抱えており、8.0%が家族関係や家族のことについて悩みや困りを抱えている。
- ※ 「おこづかいのこと」「おこづかい以外のお金のこと」は小学生のみ
 ※ 「進路のこと」「部活動のこと」「学校生活に必要なお金のこと」は中学生と高校生
 ※ その他の内容は、家庭内のこと、学校のこと、金銭関係、自分自身のこと、趣味・習い事に関する
 こと、人間関係に関すること、いじめに関する事等があげられていた。

(7-2)「特にない」以外 悩みや困りごとについて、相談にのってくれる人や話を聞いてくれる人がいますか

	小学生	中学生	高校生	合計
いる	372	694	546	1,612
いない	72	69	44	185
相談や話はしたくない	149	196	86	431
合計	593	959	676	2,228

- 悩みや困りを抱えている児童のうち、27.6%は相談相手がない、相談や話はしたくないと回答

(7-3)「いる」それは誰ですか。

	小学生	中学生	高校生	合計
家族	304	519	428	1,251
親戚	40	57	37	134
友達	203	490	418	1,111
学校の先生	112	266	179	557
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	14	36	10	60
病院の人	7	11	2	20
ヘルパーなど福祉サービスの人	5	6	1	12
市役所や保健センターの人	6	8	2	16
近所の人	10	9	6	25
SNS上での知り合い	20	42	14	76
その他	13	23	17	53

- 相談相手がいると答えた児童のうち、75.3%は、家族や親戚、友達に相談している。また、18.6%が学校の先生やSSW(スクールソーシャルワーカー)やSC(スクールカウンセラー)といった学校関係者に相談している。

(7-4)「いない」「相談や話はしたくない」話していない、話したくない理由は何ですか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
誰かに相談するほどの悩みではない	74	102	47	223
家族以外の人に相談するような悩みではない	14	21	10	45
誰に相談するのがよいかわからない	56	74	34	164
相談できる人がまわりにいない	29	57	25	111
家族のことなので話しにくい	47	41	17	105
家族のことを知られたくない	36	31	7	74
家族に対して嫌な思いを持たれたくない	40	37	13	90
相談しても何も変わらないと思う	93	128	53	274
その他	33	27	11	71

- 相談しない理由について、23.2%が「家族のことなので話しにくい」「家族のことを知られたくない」「家族に対して嫌な思いを持たれたくない」と回答。
- 「誰に相談するのがよいかわからない」「相談できる人がまわりにいない」と回答した23.8%の児童については、相談先に困っていると思われる。

問3 家族のお世話や家事について

(8)あなたは家で家族の誰かの為にお世話や家事をしていますか。

	小学生	中学生	高校生	合計
している	306	145	70	521
していない	1,869	2,050	1,127	5,046
未回答	54	30	7	91
合計	2,229	2,225	1,204	5,658

「している」あなたがしているお世話や家事の内容を下の絵から選んでください。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
①障がいや病気のある家族の代わりに買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている	107	36	16	159
②家族の代わりに幼いきょうだいのお世話をしている。保育園・幼稚園の送り迎えをしている	85	59	18	162
③障がいや病気のあるきょうだいのお世話や見守りをしている	19	10	6	35
④目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	14	13	8	35
⑤日本語が得意ではない家族や障がいのある家族のために通訳をしている	19	5	3	27
⑥働いてお金をかせぎ、障がいや病気のある家族を助けている	4	2	2	8
⑦アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族のお世話をしている	12	6	1	19
⑧がん・難病・心の病気などの家族のお世話をしている(話を聞く・寄り添う・病院への付き添いなど)	7	10	7	24
⑨障がいや病気のある家族の身の回りのお世話をしている	9	4	6	19
⑩障がいや病気のある家族の入浴やトイレの手伝い、お薬の管理などしている	9	1	3	13
その他	93	20	20	133

※ その他:食器洗い、お風呂掃除、洗濯物(干す・取り込む・畳むなど)など家事の手伝い、ペットのお世話、親に障害等はないが家事全般をしているなど

(8-2)お世話等を必要としている方は誰ですか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
母親	148	41	23	212
父親	58	24	12	94
祖母	36	15	11	62
祖父	25	1	6	32
兄弟姉妹	96	53	34	183
その他	15	12	2	29

(8-3)どのくらいお世話や家事をしていますか。

	小学生	中学生	高校生	合計
ほぼ毎日	111	62	27	200
1週間に3～5日	75	26	16	117
1週間に1～2日	59	34	13	106
1か月に1～3日	39	11	3	53
その他	11	3	4	18
未回答	11	9	7	27
合計	306	145	70	521

- お世話や家事を「している」と回答した521名のうち、「ほぼ毎日」が38.4%、「1週間に3～5日」が22.5%、「1週間に1～2日」が20.3%となっている。

(8-4)お世話や家事をしている為に、やりたいけどできないことがありますか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
学校に行きたくても行けない	4	5	0	9
遅刻や早退をしてしまう	6	10	2	18
授業に集中できない	31	9	3	43
家で宿題や勉強をする時間がない	20	18	7	45
塾や習い事(部活)に行けない	3	2	1	6
友達と遊べない	25	12	2	39
進路を変えなければならない		3	0	3
寝る時間が足りない	27	14	6	47
自由に過ごせる時間がない	35	14	8	57
特にない	211	89	44	344
その他	3	2	3	8

※ その他の回答には、「ゲームができない」等の回答もあった。

※ 「学校に行きたくても行けない」「遅刻や早退をしてしまう」「進路を変えなければならない」といった深刻な影響を受けている児童生徒も存在する。

※ 中学生で「学校に行きたくても行けない」と回答した5人のうち2人については、(13)の問いで、ヤングケアラーに「あてはまらない」、(8-3)の問いでは1か月に1～3日と回答している。

(8-5)お世話や家事をすることを、どのように感じていますか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
満足している	99	43	13	155
仕方がない	81	51	29	161
嫌だ	25	13	6	44
からだが少しきつい	29	14	4	47
からだがとてもきつい	3	1	3	7
ところが少しつらい	10	7	2	19
ところがとてもつらい	6	5	2	13
何も感じていない	89	38	23	150
その他	13	5	2	20

問4 相談ニーズについて

(9)学校や周りの大人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
自分の今の様子について話を聞いてほしい	95	75	37	207
家族のお世話について相談したい	22	7	4	33
将来のことについて相談したい	45	150	127	322
特にない	1703	1619	888	4,210
わからない	266	299	133	698
誰にも知られたくない	139	101	37	277
その他	26	10	8	44

- 回答者全体のうち、約10%については、「相談をしたい」「話を聞いてほしい」という相談ニーズがあるが、277名の児童については、「誰にも知られたくない」と回答している。

(9-2)「自分の今の様子について話を聞いてほしい」「家族のお世話について相談したい」

どんな人に話を聞いてほしい、相談にのってほしいですか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
家族	77	117	86	280
親戚	15	21	15	51
友達	61	117	73	251
学校の先生	38	77	74	189
スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	22	26	17	65
病院の人	4	7	0	11
ヘルパーさんなど福祉サービスの人	4	6	2	12
市役所や保健センターの人	10	8	3	21
近所の人	5	2	2	9
SNS (ラインやエックス(ツイッター)など) 上での知り合い	0	13	5	18
その他	7	7	5	19

- 相談ニーズのある児童のうち、27.4%が、学校の先生やSSW、SCといった身近な学校関係者に話を聞いてもらいたいと希望している。

(9-3) どのような方法で話を聞いてほしい、相談にのってほしいですか。

	小学生	中学生	高校生	合計
直接会って	94	135	115	344
電話	30	38	16	84
SNS (ラインやエックス(ツイッター)など)	13	30	22	65
メール	29	23	9	61
その他	2	0	0	2

- 直接会って話を聞いてほしいというのが一番多く、次いで電話やSNS、メールとなっている。

問5 居場所について

(10) 家や学校に居づらいと感じた時に他にいく場所がありますか。

	小学生	中学生	高校生	合計
ある	719	631	373	1,723
ない	787	929	472	2,188
わからない	701	646	347	1,694
未回答	22	19	12	53
合計	2,229	2,225	1,204	5,658

- 家や学校に居辛いと感じた時に行ける第3の居場所があると答えた児童は30.5%

(10-2) 「ある」そこはどのような場所ですか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
祖父・祖母の家	355	301	152	808
親戚の家	137	107	46	290
友達の家	274	220	120	614
放課後児童クラブ	66	—	—	66
塾や習い事などの場所	122	79	29	230
部活動	—	113	90	203
学校の教室以外の場所（保健室・図書室など）	123	71	32	226
公園や自然の中で遊べる場所	164	173	84	421
ショッピングセンターやコンビニなどのお店	62	109	51	222
図書館や公民館、児童館などの施設	59	62	27	148
食事や軽食を無料か安く食べることができる場所	23	43	24	90
無料で勉強を見てくれる場所	13	10	3	26
オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）	128	148	61	337
悩みごとの相談にのったり、サポートしてくれる場所（電話やオンラインを含む）	15	10	3	28
その他	56	40	23	119

- 祖父母の家が21.1%、次いで友達の家が16.0%と多く、次いで、公園や自然の中で遊べる場所11.0%、インターネットなどオンライン空間が8.8%となっている。

(11) 困ったときや、いつもいる場所で居づらいと思ったときにどんな居場所がほしいと思いますか。(複数回答)

	小学生	中学生	高校生	合計
いつでも行きたいときに行ける	1,200	1,320	625	3,145
ひとりで過ごせたり、何もせずのんびりできる	900	1,347	733	2,980
ありのままでいられる、自分を否定されない	613	754	323	1,690
好きなことをして自由に過ごせる	1,180	1,377	618	3,175
自分の意見や希望を受け入れてもらえる	536	550	203	1,289
いろいろな人と出会える、友達と過ごせる	671	668	229	1,568
新しいことを学べたり、やりたいことにチャレンジできる	417	426	131	974
悩みごとの相談にのってもらえたり、いっしょに遊んでくれる人がいる	620	554	211	1,385
その他	60	26	13	99

問6 感想と気付き(理解)

(12) ヤングケアラーについてわかりましたか。

	小学生	中学生	高校生	合計
わかった	1,503	1,658	879	4,040
少しわかった	623	502	291	1,416
あまりわからなかった	60	33	10	103
まったくわからなかった	28	15	6	49
未回答	15	17	18	50
合計	2,229	2,225	1,204	5,658

- 全体の約96%は「わかった」「少しわかった」と回答

(13) 話を聞いて、あなたは「ヤングケアラー」にあてはまると思いませんか。

	小学生	中学生	高校生	合計
あてはまる	191	63	36	290
あてはまらない	1,490	1,824	1,013	4,327
わからない	536	323	147	1,006
未回答	12	15	8	35
合計	2,229	2,225	1,204	5,658

- 「あてはまる」と答えた児童は、5.1%。しかしながら、お世話や家事をしているかという問いに「していない」と回答した児童も含まれていた。

(14) 話を聞いてどんなことを思いましたか。(自由記述)

【感想(抜粋)】

- これから先お父さんやお母さんが事故や病気になったとき地域の人に頼ったりしたり出来ることが分かりました。
- そういう子供がいたら、助けてあげたい。今日のお話の事を教えてあげたいと、思いました。
- ちゃんとこまった事は大人に相談するようにする。

- もしヤングケアラーになってしまったら絶対に誰かに相談したいと思った。
- 友達が自覚していないヤングケアラーなんだなと思った。
- ヤングケアラーについてよくわかりました。誰かに相談できる勇気ができました。
- 今日みたいな講演会を一回じゃなくて、たくさんやったら気づく人が増えるかもしれないなと思った。
- ヤングケアラーでもいいから少しでも障がいのある弟とか、疲れているお母さんのちからになりたいと思った。
- 今まで、自分がヤングケアラーだとは、思っただけで今回の説明で自分がヤングケアラーなんだと知ることができてよかったと思いました。自分がヤングケアラーだと知ることができると少し、気持ちが、軽くなった気がしました。
- (介護を家族で行っている児童)母から「あなたはヤングケアラーではない。自分をそんな風に思うな」と言われているので自分がヤングケアラーなのかよく分からないし、被害者ぶってるみたいって思われたく無いです。相談も、弱音を吐きたくないし、親が自分を責めたら嫌だし、迷惑かけたく無いので知り合いには相談しにくい。ネットで知り合った人に話を聞いてもらう事もあります。正直どうしたら良いのかよくわかりません。
- 私もやっぱり「ヤングケアラーなんだな」と思いました。友達もそんなに好きじゃなく、学校に行きたくないです。家もきらいで、一人での空間が欲しいです。
- 手伝いは保育園ぐらいからやっていて楽しかったのですが、5年生になってからは手伝いじゃなく家事になっていました。今では、自分のやりたい事がそんなにできていない状態です。自分ではどうにかしたいのですが、親が帰って来るのが9時～10時ぐらいなので中々言い出せていません。どうしたらいいのかわかりません。

ヤングケアラーへの気付き(自分はヤングケアラーだと知った、気付いた等)、周知(ヤングケアラーの意味を知った)、ヤングケアラーに対する感想(大変そう、可哀想、助けたい、寄り添いたい、気付いてあげたい等)、家族への思い(助け合いたい、お手伝いを頑張りたいなど)、学習会の感想(わかりやすかった、勉強になった等)、相談について(困った時は周りの人に相談したい、相談する勇気ができた、相談する場所がもっとあるといい等)という内容のもののほか、自由記述欄で困りを記載している児童も見受けられ、学習会の目的の一つでもある「相談の大切さ」についても記述が多く見受けられ、SOS教育が浸透したのではないかとと思われる。また、相談ニーズの掘り起こしにもつながったと推察される。

問7 意向確認

(15) 回答の内容を学校の先生に教えても良いですか。

	小学生	中学生	高校生	合計
よい	1,513	1,633	892	4,038
よくない	362	276	140	778
わからない	354	316	172	842

- 学校に回答を教えて「よい」は回答者全体の71.4%。

(16) 「よくない」回答の内容について学校の先生以外の人にお話を聞かせてもらえますか。

	小学生	中学生	高校生	合計
よい	25	10	3	38
よくない	297	240	120	657
わからない	40	26	17	83

- 回答内容を学校の先生に教えることに「よくない」と回答した児童(778名)のうち、学校の先生以外に話を聞かせても「よい」と答えた児童は4.9%(38名)

(16-2) 「よい」どこでお話を聞かせてもらえますか。【複数回答】

	小学生	中学生	高校生	合計
学校	20	18	4	42
自分の家	12	4	1	17
その他	8	0	1	9

5 分析

(1) ヤングケアラーの可能性のある児童

お世話や家事をしていると回答した児童は、521人(9.2%)

このうち、ヤングケアラーに「あてはまる」「わからない」と答えた児童366人(70.3%)については、ヤングケアラーの可能性があると考えられる。これは、回答者全体の6.47%に当たる。

	小学生	中学生	高校生	合計
している	306	145	70	521

	小学生	中学生	高校生	合計
あてはまる	99	28	10	137
わからない	132	67	30	229
ヤングケアラーの可能性のある児童数	231	95	40	366
あてはまらない	74	49	27	150
未回答	1	1	3	5
合計	306	145	70	521

(2) ヤングケアラーと推察される児童

ヤングケアラーの可能性のある児童336人のうち、やりたいけどできないことが「ある」と回答した128人については、ヤングケアラーと推察される。これは、回答者全体の2.26%に当たる。【複数回答】

	小学生	中学生	高校生	合計
学校に行きたくても行けない	4	3	0	7
遅刻や早退をしてしまう	6	9	1	16
授業に集中できない	31	7	3	41
家で宿題や勉強をする時間がない	18	14	5	37
塾や習い事、部活に行けない	3	2	1	6
友達と遊べない	24	12	1	37
進路を変えなければならない		3	0	3
寝る時間が足りない	26	12	5	43
自由に過ごせる時間がない	33	12	7	52
その他	2	1	2	5
特になし	145	50	21	216
未回答	12	6	4	22
できないことがある児童数（ヤングケアラーと推察） ※未回答・「特になし」と回答した児童を除く児童数	74	39	15	128

(3) 支援が必要なヤングケアラーであると推察される児童

ヤングケアラーと推察される児童(128人)が、家事やお世話をどのように感じているかという問いに未回答及び「満足している」「何も感じていない」と回答した児童を除く 89 人については、なんらかの負担を感じている支援が必要なヤングケアラーであると推察される。

	小学生	中学生	高校生	合計
仕方がない	26	18	9	53
嫌だ	12	4	2	18
からだが少しきつい	17	12	2	31
からだがとてもきつい	2	1	1	4
こころが少しつらい	6	2	1	9
こころがとてもつらい	4	3	1	8
その他	5	3	1	9
何も感じていない	10	3	4	17
満足している	11	5	1	17
未回答	4	1	0	5
支援が必要なヤングケアラーと推察 未回答「満足している」「何も感じていない」のみ 回答した児童を除く	49	30	10	89

(4) 支援が必要と思われるヤングケアラーの状況

【家事やお世話の頻度】

	小学生	中学生	高校生	合計
ほぼ毎日	28	18	5	51
1週間に3～5日	8	6	3	17
1週間に1～2日	7	4	2	13
1か月に1～3日	3	2	0	5
その他	3	0	0	3
未回答	0	0	0	0
	49	30	10	89

- 57.3%の児童が「ほぼ毎日」お世話や家事をしている。

【お世話の内容】

	小学生	中学生	高校生	合計
①障がいや病気のある家族の代わりに買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている	23	12	7	42
②家族の代わりに幼いきょうだいのお世話をしている保育園・幼稚園の送り迎えをしている	21	12	5	38
③障がいや病気のあるきょうだいのお世話や見守りをしている	6	1	1	8
④目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている	4	4	2	10
⑤日本語が得意ではない家族や障がいのある家族のために通訳をしている	5	1	1	7
⑥働いてお金をかせぎ、障がいや病気のある家族を助けている	2	1	2	5
⑦アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族のお世話をしている	6	2	1	9
⑧がん・難病・心の病気などの家族のお世話をしている（話を聞く・寄り添う・病院への付き添いなど）	1	4	3	8
⑨障がいや病気のある家族の身の回りのお世話をしている	4	1	3	8
⑩障がいや病気のある家族の入浴やトイレの手伝い、お薬の管理などしている	3	0	2	5
その他	10	5	0	15

- 「障害や病気のある家族の代わりに家事をしている」「家族の代わりに保育園等の送迎をしている」といった内容が多く46.0%を占めている。

6 考察

(1) 別府市内のヤングケアラーについて

- 調査の結果、回答者全体の9.2%(521人)がお世話や家事をしていると回答
- お世話や家事をしていると回答した児童・生徒のうち、70.3%(366人)がヤングケアラーに「あてはまる」「わからない」と回答し、内、128人(回答者全体の2.26%)がやりたいけどできないことがある」と回答している。
- この結果を今回の調査対象者(小学校4年生～高校2年生:6,846人)に当てはめると、ヤングケアラーと推察される児童・生徒が約155人いることが推察される。

(2) 別府市内の支援が必要なヤングケアラーについて

- ヤングケアラーと推察される児童・生徒のうち、お世話や家事をすることをどのように感じているかの問いに、「満足している」「何も感じていない」「未回答」を除く児童・生徒は、回答者全体の1.57%(89人)であり、この児童・生徒について、支援が必要なヤングケアラーであると推察される。

- この結果を今回の調査対象者(小学校4年生～高校2年生:6,846人)に当てはめると、支援が必要なヤングケアラーである児童・生徒が約107人いることが推察される。

令和3年度に大分県が公私立学校の小学校5年生から高等学校3年生の児童・生徒に対して、無記名により実施したヤングケアラー実態調査の結果により、別府市内には支援を必要とするヤングケアラーが約100人いると推察されていた。これは、調査対象者の1.5%にあたる。

今回の調査により、支援が必要と思われるヤングケアラーは調査対象者の1.57%である107人いると推察され、前回調査結果と似通った数字が得られたものとする。

本調査では、学習会を実施し、理解を深めた後にアンケートを実施したことから、ヤングケアラーやこどもの権利についての理解が深まり、自分自身が「ヤングケアラー」ではないかという気付きや、「困った時には相談したい」といった相談支援につながるきっかけになった。

記名式にしたことから、記名のあった児童・生徒へのアプローチや相談ニーズのあった児童・生徒との面談を開始している。悩みや困りの有無についての回答からも、気になる児童・生徒が発見されている。学校へ結果のフィードバックを行った際には、学校側も「気になるこども」「ヤングケアラーではないか」と思っていたこどもが多かったことから、学校からの早期の情報提供、教育と福祉が連携し対応できる環境を整備していく必要があると思われる。

また、今回発見につながった支援が必要なヤングケアラーについては、学校と情報を共有しながら個々に対応し順次支援を開始している。

困りを抱えている児童・生徒については、学校をはじめ、そのこどもや家庭と一番信頼関係を築きやすいところからアプローチを行い、寄り添いながら、対象者のニーズに寄り添った支援につなげていきたいと考える。

今後についても、新小学校4年生を対象とした学習会とアンケートの継続実施、定期的に見学・生徒へアンケートを実施し、周知啓発・相談体制の整備等を行っていきたい。